



ご家族との交流

暦の上ではもう秋ですが、まだまだ暑さは去りそうにありません。今年の7月は、NHKが統計を取り始めた126年間で最も暑い夏となったとの報道がありました。この暑さで就寝時もクーラーは欠かせなくなっています。オリンピック観戦で気持ちが高ぶってしまっている方も多くおられるのではないのでしょうか？

先日、今年度初めての家族会を開催することができました。今回は4月より開始した生活の場での面会に対するご意見を伺うこと、ご家族同士の親睦を深めてほしいとの思いから、各階毎に5～6名のグループ分けをして、司会進行をご家族にお願いしました。また、グループの中に3階・4階の介護職員と医務室・相談企画の職員1名ずつ参加して様々なお話を直接伺うことができました。この話し合いによってご家族同士での会話がはずみ、「他のご家族の方と会って意見交換ができ、思っていることを聞く良い機会でした」「施設の取り組みを知る機会となりました」などの感

想をいただきました。また、家族参加型のイベントを企画してほしい、普段の様子を画像で見せてほしいなど、様々な要望を伺うことができ、職員がご家族から感謝の言葉をいただくなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。

平成31年1月からのインフルエンザや新型コロナウイルス感染症により、生活の場での面会ができずに5年が経過しました。本来はご家族が面会を通じてここでの生活を知り、職員と接することで関係性が構築されます。そして共にご利用者の希望や願いを叶えていくこと、ご利用者・ご家族に寄り添うという「あるべき姿」を目指すべきなのに、現時点では十分に実施できていない状況にあります。今後も家族会などを通じて、いただいたご意見を参考に、シャローム横浜における新たな形を皆様と共に築いてまいりたいと切に願っております。今後も皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

施設長 高原 信夫

共に助け合う精神

イスラム教について紹介したいと思います。

特徴の一つに断食があります。これは、恵まれない人々の気持ちを理解するためや、神の恵みを感謝する気持ちを育むため等が目的とされています。



イスラム教は、人々に対する思いやりや仁愛、そして共に助け合う精神を大切にしています。私たちの施設でも、お互いを尊重し支え合うことが大切です。この教えを通じて、皆が幸せで安心して過ごせる場所になるよう努めています。

3階副主任 ズルハム リトンガ

写真は7月に行った花火の絵作りの様子です



第289号

令和6年8月15日発行
(毎月1回15日発行)

責任者:施設長 高原 信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜
☎045-922-7333

編集委員
荒金・石川・石橋

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



あったかいが
いいね

シャローム横浜のリハビリについて

リハビリを担当しております山中です。

ご利用者が今できることを、出来るだけ維持できることを目標に、施設での生活を元気に過ごしていただけるお手伝いをさせていただいております。ご利用者ご本人やご家族のご希望をもとに、どのようなリハビリが必要なのか、福祉用具の検討も含めて多職種で相談をして行っております。

ご希望などがございましたら、お電話やご面会の際にお知らせいただくか、隔月でお送りしている「リハビリ計画書」の『ご家族の希望欄』などをご利用いただき、ご家族の声をぜひお聞かせください。

機能訓練指導員 山中 真



あ ん み つ 屋 台



8月は、栄養課主催であんみつ屋台を開きました。冷たいアイスクリーム入りのあんみつが提供されると、入居者の皆様はその美味しそうな見た目に魅了され、楽しく召し上がっていました。

9月の行事ではピザを予定しています。どのような美味しいトッピングが用意されるのか、皆様楽しみにお待ちください。

栄養課課長 小寺 秀偉



見よ、今は恵みの時、今は救いの日である

第197回 チャプレン 上前 至

最近、衝撃的な経験をした。それは私が住んでいるマンションの近くで一軒家が全焼する光景を見た事である。初めは何が起きたか理解できなかった。最初、家内が「お父さん、変な雲が空一杯にでているよ」と言った。見ると真っ黒い煙のような雲が空高く何本も上がっている。やがて消防車のサイレンの音が鳴り響くようになった。私は何が起きているのか気になり、近くの小高い丘の上に行って騒がしい音のする方角を眺めた。すると反対側の小高い所にある一軒家の窓から赤い炎がチラチラとまるで蛇の舌のようにのぞいていたのである。「火事だ」。その時、私は初めて事の次第を理解したのである。

1時間程して火は消し止められた。幸いに隣家に一部、延焼はみられたものの、それ以上の広がりにはみられずにすんだ。某テレビの取材によると、

原因は漏電で、地下から1階、2階へと広がり、家の枠組みだけを残して全焼した。住民の高齢者夫妻は病院に搬送されたが、幸いにも軽症ですんだとのことである。私はこの事の成り行きを通し、改めて火の恐ろしさを痛感した。そしてその時、ふと感じたのである。戦争時、空襲で燃えた時の恐ろしさはどんなだったろうかと。一軒家が燃えた時でさえ、こんなに火の怖さを感じたのに、空襲で燃えた時の際限のなさを。その時の恐ろしさはどんなものであったか想像もつかない。と同時に、今、日常生活を何の支障もなく過ごせている事のありがたさと、その基礎となる平和の時代をもっと感謝しなければならない事を。

(コリントの信徒への手紙Ⅱ、6章1, 2節)

